

有馬川（高津区久末）・水路における浸水対策に関する説明会
主な意見への回答

【フラップゲート関係】

意見 1	フラップゲートを設置した場合、有馬川との接続部が閉鎖されることにより、水路内に滞留した水が水路から溢れて住宅地に浸水するのではないのか。
回答 1	フラップゲートは、有馬川からの逆流を防ぐための設備ですが、今回設置するゲートには、水路の水を有馬川に排水できる小型のゲートを複数設置する予定のため、水路内に水が滞留しにくい構造となっています。 なお、有馬川の水位上昇によりフラップゲートがすべて閉じた場合には、常設ポンプや移動式ポンプにより排水対応します。

意見 2	フラップゲートの設置理由である、逆流が主な原因と判断した根拠は。
回答 2	昨年 9 月の大雨による冠水では、有馬川の著しい水位上昇により水路の水が川へ流入できず、さらに有馬川の水位が道路面より高くなって川の水圧が上昇して水路に流入してきたことで水路が溢水したと考えています。 フラップゲートは、有馬川からの逆流を防止することで、浸水被害の軽減を図るものです。

【ポンプ関係】

意見 3	有馬川の水位上昇により水路からの水が川に流入できなくなった場合のポンプ排水で、床上浸水を防ぐことは可能なのか。ポンプの排水量等を教えてほしい。
回答 3	今回の対策は、浸水被害の軽減を図るため来年の雨季までに実施可能な対策です。抜本的な対策については引き続き検討を進め、必要となる対策の実施に向けて取り組みます。 なお、現在水路上に設置されているポンプの排水能力は毎時約 200 立方メートル、大雨時に設置する移動式ポンプの排水能力は、2 台の合計で毎時約 300 立方メートルです。

意見 4	ポンプの自動化を検討しているのか。
回答 4	現在配備しているポンプおよび配備を予定しているポンプは自動運転に対応していませんが、抜本的な計画ではポンプの自動運転についても検討します。

【長期対策関係】

意見 5	抜本的な対策として、具体的にどのような内容となるのか。
回答 5	現在は、具体的な内容について詳細に検討を進めているところであり、令和 9 年度中に説明会等を通じて、地域の方々へ周知を図っていきます。

意見 6	河川の状況を確認するカメラの設置や、ポンプの稼働状況・排水状況を確認できる情報提供システムを整備し、市民にも見られるようにしてほしい。
回答 6	抜本的な計画の中で検討します。

【水路関係】

意見 7	用水路としての役割がなくなっているのであれば、水路を廃止できないのか。
回答 7	水路は、田畑へ水を引くなどの利水としての必要性はなくなりましたが、沿線の雨水を河川へ流す排水施設としての機能を有していることから、廃止は困難です。

意見 8	水路沿いのフェンスや壁を高くして、水路からの溢水を防ぐことはできないのか。
回答 8	水路の壁面を高くすることについても検討しましたが、既存の水路を壊して新たに作り変えなければならないことや、水路脇の道路幅員や埋設物に影響が生じることから、施工が困難であるため採用できませんでした。

意見 9	市道久末 194 号線沿いの水路について、グレーチング蓋をコンクリートへ変更したことで、雨水が水路へ流入しにくくなっている可能性はないか。
回答 9	当該箇所の水路蓋は、近隣住民からの騒音に関する苦情を受け、その対策としてグレーチング蓋からコンクリートへ変更したのですが、今回の御意見を踏まえ雨水の流入状況を確認し、必要な対策を検討します。

【川の整備計画】

意見 10	近年の豪雨の激甚化を踏まえると、昭和 60 年度時点の整備水準で十分な安全性が確保されているのか疑問がある。有馬川及び矢上川について、近年の降雨実態を踏まえた整備計画をどのように考えているのか。
回答 10	川崎市で管理する準用河川の有馬川及び矢上川については、時間雨量 50mm に対応した河川改修が完了しており、現行の本市の河川計画における目標水準は達成しています。 しかしながら、近年、気候変動の影響により全国的に局地的豪雨が発生し、これまでの経験や予測を超える自然災害が多発しており、こうした激甚化、頻発化する水害への対策が必要となっています。このため、気候変動の影響による将来の降雨量の増加を考慮した上で、ハードとソフトの一体的な雨水対策を推進できるよう、流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策、甚大な被害を軽減させるためのリスクの周知等の視点を踏まえ、（仮称）川崎市雨水対策基本方針の策定に向けた取組を進めていきたいと考えています。

【矢上川地下調節池（神奈川県事業）】

意見 11	矢上川地下調節池について、どの程度の効果があるのか。
回答 11	現在、野川東付近で工事している矢上川地下調節池は、豪雨時に河川へ流入する雨水を一時的に貯留することで、矢上川の水位上昇を抑えて浸水被害の軽減を図るため、神奈川県が整備を進めています。 事業の詳細については、本事業を担当している神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センターへ、お問い合わせください。

【夜間・休日の対応】

意見 12	市の契約業者の手配について、いつ頃を予定しているのか。今後の豪雨シーズンを踏まえると早期の体制整備が必要と考える。
回答 12	現在、年間契約を締結している委託業者との連携により、夜間・休日の緊急時において出動できる体制を確保しています。

【土のうステーション】

意見 13	土のうステーションは、何を目的としているのか。
回答 13	土のうステーションは、周辺住民が土のうを必要とする場合に、速やかに供給できるよう配置しています。